



佐々木大三郎 議員 (清風会)

農政改革に伴う 当市の農業振興策は

一問一答方式

問.....
新たな農政改革による当市農家の減収見込み額は.....

答.....
米の直接支払交付金が、10アール当たり1万5,000円から7,500円に半額となり、平成24年度交付実績で見ると遠野市全体として1億1,400万円強の農家所得の減収となる。

問.....
小・中規模農家が離.....

答.....
既に集落座談会で周知しているが、新たな情報が入る都度周知に努める。また、「地域農業マスタープラン」の見直し検討会や遠野テレビによる新制度の紹介を予定したい。

問.....
農政改革を上手く活用し農家所得の向上につなげるには、農家に制度内容を細かく丁寧に説明すべきでは.....

答.....
農しないための対応策を講じる必要があるのでは.....

問.....
「営農計画や財務諸.....

答.....
遠野農業の特徴は、小・中規模農家が大半で、水稲を基盤に和牛繁殖や葉タバコ、ホップ、野菜栽培などの複合経営であることから、アストパワーアツプ事業等を充実・強化し、よりきめ細かな支援をしていきたい。

問.....
表の作成」について、当局の支援・指導体制の構築とバックアップが必要では.....



営農研修会での講義に熱心に耳を傾ける参加者たち

本庁舎の整備計画の内容は

問.....

答.....
本庁舎の設置場所に係る「進化まちづくり検証委員会」からの提言内容は「とびあ周辺に整備」となっているが、市民の利便性向上や、民有地買収等に要する費用を勘案した場合、「旧本庁舎周辺」が望ましいと考える。

問.....
建設工事は平成27年度着手と慌ただしい計画になっているが、市民と議論を尽くしたうえで決定が肝要では.....

答.....
交付期限の有る震災復興特別交付税(約11億4,000万円)の財源を上手く活用する観点から急いでいるが、市民への丁寧な説明と議論を尽くしたい。



萩野 幸弘 議員 (緑風会)

若者の出会いと婚姻数 拡大に向けた取り組みを

問.....

答.....
当市は「子育てするなら遠野」を合言葉に様々な施策を講じているが、少子化は進む一方のため、前段階である若者の婚姻件数を増やす対策こそ必要と考えるが、本市の総人口に占める結婚適齢期人口及び割合は.....

問.....
1月現在の総人口は2万9,367人で、結婚適齢期を20歳から39歳までとした場合、

答.....
昨年本市に直接届け出のあった婚姻件数は95件。因みに24年は114件、23年は94件

問.....
昨年1年間の婚姻件数は何件か。また、今後の見通しは.....

答.....
官民一体となって取り組む意義や若手市職員の見直しを重視する。また、今後の見直しは.....

問.....
若手市職員を中心とした交流イベントやSL婚活列車等民間協力による出会い創出事業を実践してはどうか.....

答.....
であった。今後も年間100件前後で推移すると見込んでいます。

産業別後継者育成の現状と今後の対策は

問.....

答.....
産業別後継者育成の現状は.....

問.....
第1次産業のうち自営農業従事者は合計4,221人で、10代から30代が228人、40・50代が731人、60代が1,083人、70代以上が2,179人である。また、商業

問.....

答.....
者を含む第2次、第3次産業従事者は、平成7年が1万3,097人だったのに対し、平成22年は1万1,141人となっており、15年間で1,956人、率にして5パーセント減少している。

問.....
後継者育成の今後に向けた展望は.....

答.....
身の丈で何が出来るかを考えれば、特に

問.....
ソフトが重要であり、それを組み立てるのは人である。果敢に挑戦する若い世代を引き上げ、更には押し上げていく中から、本市の産業振興に結び付けていくようなプログラムを組んでいきたい。



めがね橋での婚活イベント